

学校関係者評価資料

学校名：武雄看護リハビリテーション学校（理学療法学科）
 実施日：平成30年3月28日

大項目	評価項目		自己評価平均		自己点検・自己評価総括	総合評価	学校関係者評価内容	関係者評価後の学校側の考察・対策
			理学	作業		平均		
教育理念・目的・人材育成	I-1	学校の理念・目的・人材育成像は定められているか	3.9		福岡保健学院の教育理念である「人間愛・自己実現」に基づき、学校のスローガンとして「夢叶うところ豊かな医療人になるために」を掲げ、「温かい心」、「思いやる心」「感謝する心」を持つ医療人を育成すべく教育活動が行われている。このことは、ホームページやパンフレット、学生便覧に掲載するとともに、保護者会、オープンキャンパスや高校生の学校訪問等においても説明がなされている。	4.0	適切である。	教育理念、学校の教育スローガン、人材育成像を今後も学内・外に発信し、地域社会に認識していただくとともに、我々自身も常に意識し学生教育に取り組んで行く。
	I-2	学校の理念・目的・人材育成像・特色などが学生・関係業界・保護者等に周知がなされているか（*関係業界とは高校、病院、実習施設等）	3.4					
	I-3	各学科の教育目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.3					
学校運営	II-1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.3		学校教育における運営方針・計画について設置者・管理者・教職員間の考えにズレはない。学生の就職内定、国家試験合格100%、定数確保が運営方針の大きな柱となっており、教職員が一丸となって取り組んでいる。 学校運営会議・管理会議が意思決定機関として位置づけられ、その中で最終的な意思決定がなされている。 情報システムとしては学事サーバーにて情報管理を行っている。今のところ、どの職員も不便を感じることは無い。しかし、法人のリハビリ部門ではICT委員会が立ち上がり、さらなる業務の効率化が検討されている。本校としても、費用対効果を十分に検討しながら新しいシステムの導入など検討していきたい。	3.6	概ね適切である。	本校の教育・運営方針に沿って、教員一丸となって学生教育に取り組んでいく。 今後もしっかりと学生教育に関する意思疎通を図りながらも、会議の効率化にも取り組んでいく。 学事サーバーに関しては、他部門とともに検討していく。
	II-2	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか	3.3					
	II-3	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.6					
教育活動	III-1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.1		福岡保健学院のリハ部門において、教育理念に基づいたディプロマポリシー(DP)、カリキュラムポリシー(CP)が策定され、それに基づいたカリキュラム及びシラバスが作成されている。キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムとして、情意面にも着目した科目(心理学、対人関係演習Ⅰ・Ⅱ)が1年次より組み込まれ、2年次には臨床での情報収集や思考過程を学ぶ科目(理学療法技術演習Ⅰ・Ⅱ、生活機能演習)が組み込まれ、3年生での臨床実習に繋げている。また、本校においてはカリキュラム外にも、1年次に1日評価体験実習、2年次にはOSCE、5日間の評価体験実習を組み込んでいる。また、1・2年次には空きコマを利用して実技指導や実技チェックも実施している。 授業評価に関しては学生による授業評価を実施し、概ね良好な評価を得ている。 資格取得に関しては、国家試験出題基準を反映したカリキュラムを編成することで明確な位置づけとなっている。また、カリキュラム外も利用して、1年次から段階的な国家試験対策を導入し3年間の計画を策定し実施している。また、最終学年では、対策セミナーの実施や成績不良者に対する徹底した個別指導が早期から実施できている。 研修会や学会への参加は、各教員2～3回/年の参加を行っている。次年度は、学生教育に関する研修会の情報収集を積極的に行い、さらに参加を促す。	3.6	学生教育にもしっかり取り組み、自己評価も概ね適切に自己評価されているが、自己評価が低い部分もあり、今後検討が必要であるとの意見をいただいた。	カリキュラムに関してはグループ校全体で検討されており、本校としては、教員間での授業評価や授業方法を学びあう機会を設けたり、研修会へ参加する機会を設けていくことで教員の教育力の向上を図っていく。 1年次に理学療法士に接する機会や障害者と触れ合う機会を設けることについても検討し、実施することで専門職を目指す学生の学習意欲の向上をはかっていく。
	III-2	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3.1					
	III-3	授業評価の実施・評価体制はあるか	3.4					
	III-4	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	2.9					
	III-5	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	2.6					
学修成果	IV-1	就職率の向上が図られているか	4.0		就職に関しては、2月中に就職内定100%を達成できた。 国家試験合格率に関しては、91.4%(32/35)と全国平均81.4%を上回る良好な結果となっている。 退学率の低減に関しては、早期からの学習支援や日々の学生状況の把握、声掛け、個人面談等を実施した結果、今年度退学率3.3%(退学者4人/4月在学生数119人)と良好な結果となっている。 在校生の社会的活躍については、学校へ依頼のあったボランティア活動や武雄市の将来を考える市民討論会への参加、ホッケーでの国民体育大会、バスケットボールでの県民体育大会への参加など把握している。	4.0	適切である。 しっかり教育取り組み、高い国家試験合格率を出されていることや、就職支援体制が整っていることで、卒業までに全ての学生が就職内定している状況、そして何よりも退学者が少ないことを高く評価しますとのことのご意見をいただいた。	今年度も早期からの学生支援に取り組み、早期の就職100%達成、国家試験合格100%を目指していく。 退学者の低減に関しては、これまで通り、積極的に学生にかかわることとさらなる減少を目指していく。
	IV-2	国家試験合格率が良好であるか	3.3					
	IV-3	退学率の低減が図られているか	3.4					
	IV-4	在校生の社会的な活躍を把握しているか	2.9					
学生支援	V-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4.0		1年次に接遇セミナーを実施。3年次には就職活動に向けて、面接および履歴書の書き方セミナーを実施した。また、就職活動への学生の認識を早期より高めるとともに、学科全教員にも就職活動支援の重要性を認識させた。国家試験対策期間中も積極的に就職活動に取り組むことを促し、履歴書の添削指導、面接指導を学校長先生、学科教員で取り組んだ。 学内における学生の状況を学科内で情報共有し、必要に応じ適宜学生の保護者へ電話連絡や保護者面談を実施した。 本校は高専連携に積極的に努めている。高校訪問や高校ガイダンス参加することでの情報提供だけではなく、本校での学校見学、インターンシップ受け入れ、高校への教室貸出等を実施している。 教員は日頃より学生目線で学生に接し、積極的な援助を行い、学校見学、インターンシップ、オープンキャンパス等の中で誠意をもって参加者に関わることで好評を得ることが出来ている。 就学支援に関しては、学生支援機構の奨学金の他、理学療法学科には特待生制度が設けられている。また、学生寮、学生駐車場を完備するなど経済面の負担軽減を図っている。	4.0	適切である。	左記に示した学生支援や高専連携を今年度も継続実施していく。
	V-2	学生相談に関する体制は整備されているか	3.8					
	V-3	保護者と適切に連携しているか	3.3					
	V-4	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3.6					
	V-5	修学支援体制が整っているか	3.4					

教育環境	VI-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.5		理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則および理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドラインに定められた施設設備を確保し、教育上必要な教材も揃えている。特に職業実践教育に必要な、機能訓練室や治療室は十分な広さと設備が確保されており、授業や学生の自主練習に有効に活用されている。	3.8	概ね適切である。	教育に必要な施設・設備は整えられているので、今後は定期点検を実施し、学生が快適に使用できるように努める。 臨床実習に関しては、今後も実習施設との密な連携を図り、指導体制をさらに充実させていく。 防災に対しては、防災マニュアル、その他危機管理マニュアルを完成させるとともに、年2回の消防避難訓練を引き続き実施していく。
	VI-2	学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか	3.3		実習に関しては、実習施設の指導者任せにせず、学校の実習教員が定期的に訪問し学生の状況把握し、指導者との調整や学生指導を実施している。実習施設の指導者向けに説明会や反省会（意見交換会）を実施している。また、福岡保健学院のリハビリ部門の実習委員会と実習施設の実習委員会との意見交換会等も実施し、更なる実習指導体制の充実を図ろうとしている。			
	VI-3	防災に対する体制は整備されているか	3.0		学校に防火管理者を置き、消防避難訓練も年2回実施している。今年度、防災に対するマニュアル作成し次年度より活用を開始する。			
学生募集	VII-1	高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか	3.6		学校パンフレットやホームページ、オープンキャンパスでの情報提供以外に、高校ガイダンスや高校生が本校を見学・体験に来る学校訪問の受け入れなど実施している。特に今年度は、高校ガイダンスの実施件数、生徒の参加者数が昨年に比べ大幅に増加している。	4.0	適切である。	左記に示した取り組みを引き続き実施し、本校の正確な情報を伝えていく。
	VII-2	学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	3.9		資格取得や就職状況に関しては、上記の情報提供の中で正確に伝えることができている。			
財務	VIII-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.6		事業計画に基づき予算が計上され、適切な運営がなされている。財務は法人本部と学校の財務の2重体制をとっており、学校の財務管理が行われている。また、予算および決算については理事会で承認されており、会計監査も適切に実施されている。 管理者以外の職員は理解が不十分な面もあり自己評価の点数が低くなったと考えられる。次年度は、本校の全職員へ、事務担当者より説明を実施していただき、経営的視点からも学校運営を学ばせる必要がある。	3.2	多くの学校では、担当部署が自己点検自己評価を行っており、財務に関しては、事務や管理職等が行えば良いのではないのでしょうかのご意見をいただいた。	本校の事務より財務状況について説明してもらい機会を設け、全教職員も大まかな財務状況を理解できるようにする。 この項目の自己評価の評定値については、事務担当者の意見を十分に聞いた上で、役職者で話し合い評定値を決めるものとする。
	VIII-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	2.8					
	VIII-3	財務について会計監査が適正に行われているか	2.9					
法令遵守	IX-1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.6		法令遵守については法人全体で取り組まれており、本校も「学校養成所施設認定規則」に基づく報告を毎年実施し、法令や設置基準を遵守している。	3.8	概ね適切である。	今年度はさらに、個人情報管理に関するマニュアルを作成し、個人情報管理の徹底と万が一漏洩が発生した場合の対応への備えをしておく。
	IX-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.4		個人保護法に関しては法人全体の規定を設けていおり、教職員及び外来講師、学生が厳守すべき事項が定められている。 臨床実習における個人情報保護に関しては、SNSの取り扱いも含め指導を徹底している。			
社会貢献・地域貢献	X-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.3		周辺地域の生徒が通う通信制高校のスクーリングの場として使用していただくことで、地域に貢献している。また、本校理学療法学科の教員が高校の部活動の先生方の研修会の講師を務めさせていただいた。	3.6	概ね適切である。	左記に示した地域への貢献を継続するしていく。 学生のボランティアについては、理学療法士教育の観点からも積極的に参加を促し、特に障害者や高齢者とかかわる機会を増やしていく。
	X-2	学生のボランティア活動を奨励しているか	3.6		学生のボランティア活動を推奨しており、地域の清掃活動や武雄市のチャレンジスポーツ等へ参加している。参加した学生には、称賛するとともにクオカードを学校長より手渡していただいている。			

4. とても良くあてはまる 3.よく当てはまる 2.大体当てはまる 1.当てはまらない